（明治四十一年…第三種郵便物認可）（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年十一月五日（金曜日）　第二百五十六號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六二）
發行所　京城新報社

牛溲馬勃

一記者

▲是亦換骨脫胎

注意して歩いて見ると、韓國には非常に兒童が多い割に、十八九の年輩者の尠ないのに心附くであらう。這は例の韓式の小兒養育法を執るので、精しく言へば、小供を育つると云ふよりも自然の生長に任すると云ふ有樣で、馬骨を拾て食つて居つても未熟の果物を噛つて居つても其等の事には頓着なく欲すれば隨て飽かせ飽けば隨て其の欲する盡放任して置く有樣、丸切りスパルタ式である。此の如くにして放任主義を以て其の子は其の子の自長に任せる所から、强い者は生き殘り弱い者はドシ／＼死に去つて了ふので、自然に見事な淘汰が行はれて頑强の者のみ生育するのである、年の十八九の頃は得て熟れ易い年輩であるに加へて此の如き遣方なので、多國人の眼に留まる程まで小供の多い割に此の年輩者が少ないのである。して此の厄に生き殘つた者は自然に於て亦た不規則な亂暴な遣方をする。得る所あれば酒店に立寄つて飽く迄食ひ飽く迄飲むも、得る所無くれば幾日でも露天に横臥して惰眠を貪ると云ふ有樣ナカ／＼以て眞似の出來ぬ樂天主義。此の遣り方の遣り始めに於て又た僅一の淘汰が行はれ此の大厄をも無難で通過して出來上つた者が即ち今日苦もなく四十貫餘も擔いで居る屈强な体軀となつて居るのである予がスパルタの曲型でなり上つた韓人であると云ふのも一つは此の點を云つたものである。それから吾人が韓人をして云へば直ちに盜賊を聯想し、韓人てふ字は轉ては盜賊の代名詞に使用し得らるゝ程迄盜みの心に盈み滿ちて居るのは、是れ亦た生れ落ちてからスグと親から敎へらるゝお蔭である。併し思へ、スパルタは何の爲めに智育に体育に此の激越なる敎育法を執つたか、してスパルタは丸切り德育の點を閑却したのか、思うて此に至ると予は韓人の其れが甚だ無意味で、骨拔士譜の其れの如く只其の曲型をのみ眞似イヤ形の似て居るのみであるのを笑はざるを得ない。是れ亦た換骨脫胎の好適例、予は此に自然的スパルタ式と云ふ擬の新字句を與へむ。

▲五十歩百歩のみ

美食は人の欲する所、美衣は人の希ふ所、軒冕亦た誰か願はざるものあらんやである、苟も之を欲する、人の之れを擅にするのを見て羨み欲むは亦た人の情である、然るを故らに己れ之を欲せざるものゝ如く裝ふ所にあらざるものゝ如く人の其れを擅にするのを見て彼れ以驕者なり彼はキザなり彼少しく懷の溫かなるに任せて猥りに美食に飽き美衣を飾るは甚だ以て許し難し、彼は身の分を知らずなど盛に痛罵を試みるのは世間滔々皆な是れなりであるが此の痛罵を逞うするもの果して此の痛罵を逞うするの資格あるやは一の疑問である、何となれば其の之を痛罵する者己れ之を擅にするの資があつて已れは已れの分を知つて之を敢てせざるものであるか疑問であるからである已れ之を縱にするの力なくして羨望するの極、口美なるの批判を試みる者が多いかと疑ふのである、恐らく亦た甚だしからずやである、人を尾羽打ち枯らして途行くを笑ふ者に至つては沙汰の限りであると同時に破れたる褞袍を被尻切た草履を穿つて人に恥ぢらい悄然たるが如きも亦た沙汰の限りである、予は其の笑はるゝを恥つる者を嘲ふと同時に其の笑ふ者を嘲はんと欲す、美衣美食を以て誇りとする者は其の愚元より笑ふべしと雖ども人の美衣美食を批判する者の愚も亦た笑ふべく、予は二者の相去る只其れ五十歩百歩のみと云はん、社會主義者の金持ちなきにも似たらん哉である。

雜報

伊藤公の祖先（河野通直の事蹟）

伊藤公晩年家系を訂し、遂に自ら豫州刺史河野通直なることを發見す左に河野家の秘譜河野軍記に就きて聊かその由來を窺はん

◎世は刈菰と亂れたる元龜天正の昔、家系千餘年に及べる我邦兵家の名門河野通直、豫讚兩地を領して伊豫溫泉郡湯月城に據る、之が伊藤家の祖先とす

▲偶々天正拾三年正月　羽柴秀吉破竹の勢ひを以て兵を四國に進めんと欲し毛利輝元を此手の首將となす、その事逸早く豫讚兩地に傳はりたれば紛々たる浮說に惑ひて巷間の人心穩かならず領主通直乃ち令を部下の諸將に下し、城砦を固め、鏃を磨き劒を研ぎて待ち受くる程もなく六月遂に輝元の先陣大和大納言秀長、小早川左衛門佐隆景各々兵兩三萬を率ゐて秀長は讚に隆景は豫に分かれて上陸す

▲攻軍　勢ひイヨ／＼鋭ければ風を望んで河野の宿將來島兄弟まづ降り隆景その勢を併せて七月中旬新居濱を略取し高尾高峠等の數城を陷れ劒山、獅子鼻山等の堅壘を拔く

▲秀長亦た國分　石井山、老曾山、鷹取山等の諸城を破り己に豫州に入り隆景と相呼應じて將に湯月城に薄らんとす時に盛夏八月を過ぎ新秋九月の候なり

▲兩軍相對峙して城未だ陷らず　適々隆景の降を勸むるに遇ふて通直遂に降意を決し隆景に依りて秀吉に降る爰に兩州忽ち平定して小早川、安國寺兩氏の分領する所となれり

▲さる程に通直　は降りし後も隆景の情に依りて依然湯月城に閑居し三年の星霜を寂しく打過ぎたるが時に領地換へのことありて福島正則入國すべしとの說傳はるや、隆景通直に謂つて寧ろ與に安藝に移りては如何にやと慫慂し通直正則を知らす乃ち隆景の意を諒し之に隨つて安藝に赴き輝元に依りて家門の恢復を圖らんとせり此時通直に從ふ者一族郎党僅かに五十餘人なりき

▲然れども　通直安藝に移りて後も志を伸す能はず昨の榮華猶ほ夢に殘りて世の無常を觀ずる深かりければ幾時も無く一旦高野に踏入りて俗塵を脫せんとしたるも妄執俄かに去らずやありけん下山して復び藝州に歸りしが廿四歲を一期として竹原の蟄居に悶死せり

▲通直死後　秀吉の命なりとてその一族郎党を郷國伊豫に送り返し母堂と遺女を長州に移し毛利家に預けらる未亡人因て毛利の重臣宍戸氏の子を養ふて嗣とす、これより三百の星霜を經て伊藤公に及べりとぞ

▲今春伊藤公　伊豫に遊び湯月城址に催されし地方民の歡迎會に臨みて自から家系の河野に出づる由を演說し圖らず祖先永住の地に來りてこの盛宴を餐くるは、我が爲に故鄕に錦衣を飾れるなりとて喜色溢れ、且つ籍を伊豫に移さんとの意を漏せり、即ち伊藤公は自から河野通直の後裔たるを信ぜられたるなり



第二十二席

伯山改　神田松鯉口演

廉夫人の手元に鶴のありと聞いて爲朝は大に悅び　爲「是れは又不思議の事を承はるものでござる、拙者の放ちし鶴が何うして御身の許に……」廉「怪しみ給ふな客人、今朝我が庭へ一隻の鶴が下りたりしが、能く人に馴れて追へども飛去らず、足には黃金の牌が付けてあり、イト珍らしき鶴なれば籠に入れてありますれば、早く御覽せられよ」と、爲朝を誘ふて小屋の側に至れば、成程籠に入れたるあり、爲朝は走り寄つて見れば紛ふ方なき彼鶴でありますから飛立つ許りに悅び　爲「是れなり／＼、我、心あつて來りしに遂に索め得ず、今、心無くなして鶴を見ること嬉しけれ、然からば早速に彼の珠を以て交換すべし」とハヤ籠を背負ひて立去らんとするを、廉夫人は引止めて「今、我が王女思はずも珠を得て都へ歸ることの出來まするは皆是れ御身の賜でありますれば、此儘御別れ致さんも御名殘惜しき次第なれば、今暫らく逗留ありて王女と共に都へ來り給はらば妾も嬉しく思ひまする」と、イト懇に申しますれば、爲朝は頭を左右に打振り　爲「イヤ／＼其の御親切は辱けなけれど我、今鶴を得て歸心矢の如し、願くば是れにて御別れ申さん」と籠を背負ひて立出でんとする時に、廉夫人は飯を桐の葉に包みて取出し　廉「是れほんの糧餉に召上つて下されまし、御身は此國の案內を知り給はぬなるべく、若し途に迷ひ給はゞ夫れこそ御困りの事でござらう、是れより東南二三十里は皆海濱にして人家なし、唯東々と往けば人家ある所へ出でまする」と數々示されました此時寧王女はまだ十四歲の蕾なれど、爲朝の人品骨柄の卑しからぬを見て寧「喃、母樣、妾は此の客人を相るに委こそ商人なれど何處となく勇氣の滿ちたる容貌、親雲上（武士の事）にてあらんと思ふ、若し日本にて時に遇はず空しく民間に隱るゝやうなことにても候はゞ、願くは我國に留まるやう勸め下さるべし」と申されたるには、爲朝心中大に感心しましたので、ニッコリ笑つて王女に向ひ　爲「拙者は全くの商人にて武家など云ふものにあらず、日本には尚は父もあり、假令此國に留まりて富貴を受くるよりも父母の國にありて貧しきには如かず候」と、答ゆれば、寧王女重ねて　寧「我が身をも日本へ連れて給はれよ、吾身金珠を得て都へ上るは靈に似て却つて禍を招くに似たり、其故如何となれば中書君妬み深く在しまして妾を憎み給ふこと甚し、それさへあるに我が父寧盛國師に迷はされて民百姓より重き稅を取立て給ひ、加之若し此の珠は彼の失ひつる珠と寸分も同じからざれば夫れこそ我が身は父を欺くの罪に陷るなり、唐土の諺にも小人罪なし玉を抱いて罪ありとか言へり、願くば妾は母と共に日本とか云へる國へ住居たきものなり」と涙を流して賴まれまする、爲朝は大に感激し　爲「イヤ御尤の御事なりなれど、大王は御身の實の父にて在すなれば、イカデ心より惡み給ふことやわらん、兎に角御心を決して早く都へ歸り給へ」と、樣々に宥めすかしまして漸く其處を出立し、路を急いで東へ／＼と辿つたが如何に踏迷ふてか行けども／＼家はなく、唯茫々たる平沙なり、日も漸々暮れなんとして饑を覺ゆるから滑かな石に尻を掛けて先きに貰ひ得たりし包飯を打開らけば、飯にはあらで日本には未だ見もせぬ蕃たる芋なり、是を味はふに其色黃にして味イト甘し、二つ三つにして既に腹に滿つ、此の芋后に薩州に渡り世に薩摩芋と稱するは是であります、さて爲朝は十里も歩んだと思ふ頃、漸く元の港へ出で旅館へ歸りついたが、恰も今先きに便船しつる日本船、追風宜しきとて纜を解かんとする所でありますから爲朝大に悅び取るものも取敢ず乘移られましてございます、



京城新報

司法權の獨立

治外法權の撤去に就て

司法權委任の實施に就ては之に關する諸法規は既に發布せられ、職員の任命其任諸般の準備成りて、本月一日より之を實施せらるゝに至れり。韓國は建國以來、行政司法の區別截然たらず、之が爲に其裁判は公明を欠るのみならず、多くの場合に於て行政と司法とを混同し、其判決の如き常に少數强者の勝訴となり、多數國民は毎に怨を忍で泣けり、加之苞苴盛に行はれて正義は之が爲に常に沒せらる、帝國が韓國を保護統治することゝなるや先づ以て行政と司法とを區別し、着々其腐敗の匡正を勗め、新制度を實施せしめ、文明式の裁判所を設置し公明なる判決を與ふるに至り、從來の弊害は稍々除却せられたりき、然れども其司法權を韓國政府の手に置ては一は財政の點より一は因襲の久しき容易に其弊風を改善する能はざるものあり、是が爲に識者は夙に司法制度の前途に就て論議したりき、然るに本年七月伊藤前統監掉尾の事業として司法權委任の新協約締結せられ、玆に始て司法權を帝國に掌握するに至る、爾來實施の準備に着手し、今や準備既に成了して、其實施を見るに至れり、之によりて韓國の司法事務は頓に改善せらるべく、韓國民は勿論、在韓外國人の生命財產の安全を期するに至るべし、從て韓國に於ける治外法權の撤去をして速ならしむるに至るべきか。

治外法權の撤去は韓國に於ける最大問題也、司法權にして眞に獨立せずんば治外法權撤去の目的を達する能はざる也、治外法權の撤去は我對韓政策の解決に於ける最大の問題也、是を以て司法權の委任實施は我對韓政策上最も重要の事なりとす、是によりて司法權を全に獨立し、裁判所及監獄が漸次改善せらるゝに至れば、列國は必ずや治外法權の撤去に就て故障を云はざるべし治外法權にして撤去せらるれば韓國と列國との關係は截然となり、韓國は列國に對しては全然帝國の一部と見做さるゝに至るべきは當然也、而して當局者の最も猛省せざる可らざるは、關係列國をして安じて治外法權を撤去せしむる迄に完全ならしむるにあり乃ち司法權をして最も完全に獨立せしめざる可らず、假令統監たりとも司法權に對しては一指だも染むる能はずと云ふが如くせざる可らず、名は統監府司法廳なりと雖も、全然獨立の府たるは素より當然の事にして、之に就ては彼是論する迄もなけれども、萬一にも斯る傾向だもありとすれば治外法權の撤去に多大の影響あらむ、余輩は此點に就て深く當局者の猛省を望む。

東京電報

御發輦と供奉員

大元帥陛下には明五日東京御發輦大演習御統監の爲め行幸仰出されたるに付き供奉員仰付けられたる主もなるもの左の如し(三日)

侍從長 侯爵 德大寺實則
宮內大臣 公爵 岩倉具定
侍從武官長 男爵 中村覺

皇太子殿下御昇進

皇太子殿下には本日陸海軍中將に御昇進遊ばされたり(三日着發)

英皇帝の御名代

本日英國太使マクドナルド氏は英皇帝陛下の御名代として國葬に差遣せらるゝ旨既報を經たるが葬儀係に於ては特にマクドナルド太使に對し外國皇帝に準ずる待遇をなす筈皇帝陛下が外人の葬儀に對し御名代を差遣はさるゝは破格の儀なりと(四日)

伊公國葬の盛儀

故樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤博文卿の國葬は會葬者無慮**四十餘萬**に達し曠古無前の大盛儀を以て營まる其概況は豫定の通り先驅騎馬警部三列の後に軍樂隊儀仗兵次に眞榊、白旗、神饌、唐櫃、祭官、副齋主、齋主、鉾、楯、榊數十列を爲し其次に勳章を捧げたる者二十名二列となり次に家從次に柩、柩側には家從徒步にて從ひ喪主喪服次に家從家族親族滿洲隨行者葬儀係孰れも徒步其後に會葬者大勳位親任官同待遇公爵從一位勳一等勅任官侯爵正二位勅任待遇伯子男從四位以上勳三等奏任官奏任待遇從六位又は勳六等以上貴衆兩議院議員東京市長特別緣故者儀仗兵警視警部の順序により隨從し靈南坂官邸出棺日比谷公園の齋場に安置し　天皇陛下皇后陛下皇太子殿下の御名代靈前に拜跪し弔意を傳へ特に各宮殿下は親ら參拜を賜はり桂首相以下各大臣其他會葬者恭しく參拜し弔辭の靈前に供へられたる實に**九萬八千通**の多きに達したり沿道には全國より集まり來れるもの雲の如く欷歔涕泣して公の偉勳を追慕し滿都の光景一入の哀れを呈せし而して其盛儀の森嚴なる前代未聞と云ふの外他に形容辭なし(四日午後三時)

露國藏相渡日せず

露國大使館員の談によれば露國藏相の旅行日程は十二月四日迄に歸都の豫定

歐州電報

マ島の喰人種族

マニラよりの來電に依ればアルラトリーアイランド島の喰人種族は英國人三名と支那人三名を捕へ逃走せるが一英人を除く外殘りの五名は之を喰へり

貿易の新路計畫

目下露國に於て審査中に屬するゴロクスト氏の貿易新路計畫左の如き也(一)オビ河とイリチ河との間に運河を新開すること(二)オビ河と歐洲との間に海路の連絡のため鐵道を敷設すること(三)右運河計畫資金として提供せるもの已に四千萬ルーブルに上りたる由なるが此計畫にして成功せば歐洲穀物價格に著るしき變化を來すべし(三日)

摩洛哥の大騷擾

タンゲール來電によれば九月潜王アブタルヂスはフエヌ回潜王アブタルアの處刑後摩洛哥國內の潜王黨の反對鎮定に至らず又々正當の摩洛哥國王なりと宣言せしより摩洛哥王は之に對し軍隊全部を派遣せり但し潜王アブタルアヂスはタンヂールにありて靜穩なる生涯を送れり(同上)

追放條例の反對

露領　西比利亞に移住せる韓國人は露國政府の發布せる追放條例に反對して露國議會に訴ふる所ありたりと(同上)

大連電報

斷指の同志十名

伊藤公狙擊の兇漢は目的遂行の誓約を爲し左手小指を切斷せる特徵ある事既電の如くなるが尚ほ外にも十名の誓約せる同志あり孰れも斷指を爲し居り彼等は時々日韓の顯官を暗殺せんと四方に散在せる旨犯人は自白せり(四日)

奉天電報

憲政研究の彈劾

奉天に於ける憲政研究會は北京政府に左の意味の電報を送りたり(三日午後)
日清協約は清國の主權を失したるものにして大局憂慮に堪へず請ふ別に大員を派し改締を計り梁敦彥は賣國の罪免る可らず國法に照して天下に謝し以て禍根を永久に絶つべし云々

韓皇の御使差遣

韓皇は本日午前十時侍從院卿尹德榮氏を御使として統監邸に遣はされ統監に會見し伊藤公に對する弔辭を述しめり

太皇帝の御臨幸

太皇帝には既報の如く本日午前九時四十分德壽宮御出門水寅君趙承雍府總管具副總監呼子警視外禮式官二名侍從二名を隨へ儀仗兵に前後を警衞せられて十時統監邸へ臨幸し統監に會見し伊藤公に對する弔詞を述べ恩人伊藤公が滿州旅行中兇漢の爲めに狙擊せられ遂に薨去せられたるは實に深悼の至りに耐へず然かも其兇漢が吾が國民なりと聽くに至りては何の辭か能く之を謝するを得ん且つ太子李垠の哀情察するに餘りあり惟ふに日本天皇陛下の御震悼如何ばかりと察せられ恐懼措く處を知らず何卒今後の輔育に就きては可然御取計を乞ふ旨仰せられたる由而して會見二十分にして御還幸相成りたり

國葬と韓帝詔勅

伊藤公爵國葬に際し韓帝は左の詔勅を發せられたり

詔に曰く經國の要は邦本を固ふし萬民を保全するに在り方今中外の大勢が國勢の孤弱なる日本の保護に倚らずんば能く其存立を保つを得ず是故に登祚の初大廟に誓告して曠古の改革を行ひ華を捨て實を取り開國進取の大計を定め夙夜競業維れ及ばざらん事を恐る太子太師伊藤公爵精誠を効たし日本中興の偉業を贊け臺輔の重きに列し玆に四十有餘年憲章を定め皇猷を振張して現に樞詢の要職に在り恒常東洋の平和と始終し其大命を奉じて統監の任に膺り兩國利害共通の根義に據り朕が國政を指導して休戚を分ち朕をして其懇誠に倚信せしめ維新經始の丕績を漸成するを得たり又老軀能く太子を補育し匡救の忱を竭くして渝らず惟ふに日本帝國の柱石たるのみならず眞に朕が國家の師表たり厥の勳厥の德前古偉なし豈に計らん驅所を出で途哈爾賓を過ぎ朕が狂悖なる人民の兇手に傷けられ遽かに薨亡す今客歲の日に當り傷痛益々切なり思ふに彼が如き狂悖の徒は世界の形勢に暗昧にして徒々日本の敦誼を蔑如し覺こ乃ち無前の變怪を釀出す是れ即ち朕が國家社稷を賊害するものたり若し朕が臣民にして朕が斯意に違背し凶虐事を滋くする者あらば民衆何を以て綏安するを得ん國基何を以て鞏固なるを得ん爾臣民相率ゐ相戒め朕が旨を體せよ

御名御璽
隆熙三年十一月四日　內閣總理大臣　李完用

嚴貴妃の御病氣

嚴貴妃は一兩日前より風邪の氣味にて目下御臥床中なりと傳へり

統監の御禮參內

曾禰統監は本日午前十一時石井、外波兩武官、佐竹秘書官、前間通譯官を隨へ德壽宮に參內太皇帝陛下に謁し昨日特に統監邸御訪問の御禮を言上して約十分間にして退闕されたり

和蘭公使の入韓

駐日和蘭公使ロイエン氏は滿韓漫遊の途本五日夕着京すべき筈なりと

仁川追悼模樣

仁川官民の故伊藤公追悼會は豫定の如く四日午前より二段小學校雨天體操場に於て擧行されたるが曾其他各信徒有志中より寄贈されたる榊花及び餅等を供へ先づ小學校生徒の禮拜に次で神官の祭文並びに各宗僧侶の[illegible]朗讀し新くて參會者は思ひ〳〵に燒香して散會せしは午前十一時なり此日[illegible]信夫夫人は婦人會を代表して弔文を[illegible]は仁川のあらゆる階級を網羅せる官民及び婦人會員等無慮七百餘名に達せり

明石少將等出發

明石少將通譯官を搭乘せる酒田丸は本日午前十時大連へ向け仁川を拔錨

伊公國葬と京城

今四日は伊藤公の國葬日にして上下萬民齊しく哀悼に堪へざる處なるが當地にては曾禰統監祭主として午後二時より大和町憲兵隊本部構內にて祭典を執行したり先づ奏樂の裡に開式を告げ次て秋の行事あり次に奏樂の中に副齋主昇殿降神式を爲して獻饌あり夫れより齋主の祝詞、祭主曾禰統監の祭文あり、終つて祭主、齋主、大久保軍司令官、參拜者一同玉串を獻じて撤饌昇神式ありて、閉扉し一同靜肅の裡に閉散したるが參拜者は曾禰統監、石塚長官以下統監府官吏事務取扱其他各參與官以下韓國政府傭聘の邦人官吏、軍人、居留民各國領事、在留歐米人、淸國領事並に領事館員等無慮**一千人**其外各學校生徒等にして頗る盛式なりき尚ほ市中重なる商店は大抵店を閉ぢて業を休み其他何れも半旗を揭げて吊意を表し各劇場も一日丈け遠慮なし料理店の如きも一切歌舞音曲を廢したれば市中寂として聲なく頗る悲痛の感あり、而して本社社員一同は謹吊伊藤公爵閣下と大書せし吊旗を先頭にて祭場に參列して敬意を表したり

曾禰統監の祭文

一昨四日當地の伊藤公追悼會に於て曾禰統監の朗讀せし祭文は左の如し

明治四十二年十月二十六日樞密院議長大勳位伊藤博文閣下薨ズ嗚呼哀哉公輔弼ノ資ヲ以テ國事ニ盡瘁スルコト四十有年功勳ノ赫灼タル中外ノ齊シク欽仰スル所タリ其ノ晩ニ統監ノ任ニ當ルヤ一ニ赤誠ヲ傾ケテ韓國ノ扶翼ニ努メラル職ヲ去ル未ダ幾タナラズ忽然滿洲哈爾賓ニ於テ韓人ノ兇手ニ殪ル上下驚愕痛嘆セザル莫シ但タ公ノ翼贊ニ係ル維新ノ洪業ハ既ニ大成ヲ告ゲテ國運益々隆盛ニ赴キ而シテ韓國ノ扶植モ着々實蹟ヲ擧グントス公以テ瞑スベシ玆ニ敬テ蕪辭ヲ陳シ奠饌ヲ薦メ公ノ昇天ヲ祭ル希クハ享ケヨ

明治四十二年十一月四日　統監從二位子爵　曾禰荒助

奬忠壇の追悼會

韓國上下官民の藤公追悼會は豫報の如く昨日午后二時奬忠壇に於て悲哀なる樂譜の裡に開會李總理弔詞を朗讀し次いで侍從院卿尹德榮、漢城府民會代表尹彥定も弔詞を朗讀し一同參拜嚴肅の裡に會を終れり參會者の重なる者は皇族李載冕、李載完、李載克、李埈鎔、李址鎔を始め總理大臣李完用、內部大臣朴齊純、度支部大臣高永喜、學部大臣李容植、親衞府長官李秉武、侍從院卿尹德榮、女官九、宮內府大臣權重顯、同李根澔、前度支部大臣任善準、前法部大臣李夏榮、前宮內府大臣李根湘、前軍部大臣尹雄烈、拓殖副總裁閔泳綺、內閣書記官長兪城府尹、其他官民六千餘名親衞府將校軍人二百九十名各官私立學校生徒約一萬頗る盛式なりき

學童禮拜を拒絶

一昨日の奬忠壇追悼會には市內各學校生徒參列到着順により梅洞普通學校を第一とし祭壇前面に整列順次禮拜を行ひしが獨り遲れて參會したる西小門外梨花學校の女生徒のみは祭壇前に整列したるのみにて敬禮を促すも宗敎上の信念により遂に禮拜を行はざりき因みに同校はメソヂスト敎を信奉せる者也

學事視察員地方出張

今回學部より全道各地へ學事視察員を差遣せしむる事となりたるが既に發程の途に上りたるは慶南全南兩道へ二十日間の豫定を以て秋元馬淵兩主事金俊沫慶南江原忠北三道へ十五日間の豫定にて田本高木の兩主事朴往東平南北兩道へ三週間の豫定にて山口西本兩主事超演稷等にて孰れも去る三日より今四日までにそれ〴〵出張したりと云ふ

荒井度支部次官歸朝

荒井度支部次官は五日大藏大臣と同道例年の大阪造幣局に於ける貨幣試驗を參觀し同時に各銀行家の集團に臨み一場の韓國財政に就き演說さるべき筈なるが歸任期日は多分十日後なるべしと

郵便物特別取扱開始

京城郵便局に於ては本年十月遞信省令第四十六號に據る通常郵便物市內特別取扱を去る一日より開始したり何は當該規則は同局前に揭示しありと云ふ

羽田丸山兩氏招待會

大阪每日新聞記者羽田浪之紹大坂朝日新聞記者丸山侃二兩氏來京に付本夕各新聞社通信社の有志はソンタクホテルに兩氏を招待し歡迎の宴を開けり

龍山の伊藤公追弔會

龍山佛敎各宗聯合會にては來る六日午後三時より元町三丁目本願寺にて伊藤公追悼會を執行する筈にて參拜隨意

ハーバートの大連行

米人ハルバートは昨日突如として仁川に下り支那町なる怡泰方に一泊の上本日出帆の酒田丸に乘じ大連へ赴けり

來年度の豫算查定期

韓國來年度豫算案は今明日中全部出揃ひ十五日頃より查定に着手すべしと

齋藤大佐以下着京期

齋藤前間島派出所長及び篠田前同事務官等の一行は來る七日着京の筈なり

谷川警部の旅順急行

警視廳勤務の谷川警部は或る要務を帶びて昨四日旅順に向つて急行したりと

米穀稀有の暴落

七月中は十一圓五十錢の間を推行きし韓米も八月に入りてより一時日本需用の聲價に驅られ一躍十四圓臺に迄突飛せしも爲めに地方出廻米の饒多となりしと一面昨今に至り本國農產米曾有の豐穰を見たると更に韓產米の相當收穫とにより最近新米の出廻を氣揣へ十月に入りてより俄然下向の姿となり昨今にては既に十圓內に迄既落したり此の如く少期間に於て四圓强の暴落は實に未曾有の事にして二十年來米商を營める古舖に於ても一度も遭遇せざりし大異變なりと云ふ尙目下京城の在米は約五千石を算するが前途を氣遣ひ各自手控へなると同暴落により地方出廻りの稀薄なる結果供給過多の現象は暫らく見る事は得ざるべく爲めに價格に於ても當分は保合の姿にて目覺しき變動はなかるべきも併し右の價格が果して最低の底値として持續さるべきか否は頗る疑問にして日韓對米出廻り高に鑑み商況は如何に變動さるべきや當業者間に於ても左考右思殆んど氣迷の裡にあり從つて仕入の如きも極めて消極に只管ら前途を氣遣ひつゝ其日を送りつゝあり因みに韓人一般の豫想は現角的もなき妄說とは云へ今後韓桝一つに就き(日桝一升五合相當)十錢以內に迄下落すべしと期待され居り尚一ヶ月前迄には十四圓五十錢を往來せし二等米(主として韓人需用)も昨日わたり十圓四十錢賣買價格なりと右の如くなれば雜穀の伸れて下落せるは言を俟す

韓銀重役の來期

韓國銀行創立事務は東京に於て遲滯なく終了したるを以て市原新任總裁以下水越、三島、木村の三理事は來る十日東京出發渡韓の途に就き廿一日より第一銀行との間に引繼をなし廿三日を以て完了する豫定なりと

十月下旬の外國貿易

關稅局調查に係る十月下旬外國貿易の總額並に其の港別は左の如し

區別	本年本旬分	前年同期
輸出品價	六三三、八七九	四六四、二〇五
輸入品價	一、一二〇、二三八	一、五五七、八三三
合計	一、七五四、一一七	二、〇二二、〇三八
輸入超過	四八六、三五九	一、〇九三、六二八

本年貿易額の港別左の如し

港別	輸出額	輸入額	計
仁川	五三、三九二	三六五、五九三	四一八、九八五
釜山	六二、六六六	二四六、七〇一	三〇九、三六七
元山	三三、八〇五	一〇一、五七四	一三五、三七九
鎮南浦	一七九、四五三	一四、六六一	一九四、一一四
京城	一三一	一五四、二七八	一五四、四〇九
群山	五四、二三一	二九、一一五	八三、三四六
木浦	五七、八八七	二四、九六四	八二、八五一
馬山浦	九、九六八	一九、一六六	二九、一三四
淸津	一、四〇〇	四五、五五六	四六、九五六
城津	八、五五七	一〇、六四八	一九、二〇五
新義州	一三、三三七	[illegible]	六〇、四六九
計	六三三、八七九	一、一二〇、二三八	一、七五四、一一七

●阿部事務官歸任　客月來元山、咸興、淸津、會寧及び間島方面に於ける金融狀況調查の爲め出張中なりし度支部事務官の阿部氏は一昨日歸任したりと

白銅貨及葉錢ご納税

[illegible]ならず此が爲め税金の納入に遲延を來す[illegible]事に決定し各監督局長に訓令したりと

一、國庫金取扱郵便局所に於て此が受入を背諾せざる時は納税人に不便なるのみ[illegible]が受入を肯せざる時は其納入せしむと[illegible]

[illegible]は千圓葉錢は三百圓以上に達したる時は財務署は其接近金庫農工銀行本支店出張所又は金融組合に對し新貨との引換を請求する事

四、葉錢白銅貨は現金を保管したる者[illegible]換に依り得たる新貨を遲滯なく保管者をして國庫金取扱郵便局所に納入の手續をなさしむる事

●横山謙氏の招宴　前仁川民團助役横山助役は六日午後六時より仁川官民有志者を入坂樓に招待し盛宴を張る由

●佛敎靑年會例會　南山本願寺に於ては本日午後七時三十分より講話あり

●春川管區長來着　憲兵中尉相原五郎氏は昨四日入京し山本旅館へ投宿す

●永田紀孝氏入京　淺川警察署長の同氏は四日入京三日月旅館へ投宿せり

●天野署長の入京　羅南警察署長天野章四郎氏四日入京三日月旅館へ投宿

●西野大尉の入京　步兵大尉西野三郎氏昨日入京九州旅館へ投宿したり

●山口軍醫正來着　陸軍省醫務局二等軍醫正山口弘夫氏四日入京浦尾へ

●巽正良氏の退京　全羅南道觀察道主事の巽氏は昨日釜山へ向け出發せり

近事片々

▲伊藤公の國葬式は最も悲壯嚴肅に行はるゝと會葬者八十余万人空前の盛事
▲靈南阪官邸より大森墓地迄約三里の間は人垣を造り老若男女皆泣て送る
▲滿都の人心偉人を哭する爲に何となく一種凄愴の氣に滿つと左もあらむ
▲京城に於ける追弔會も最と嚴肅に行はれたり會衆萬に及ぶ未曾有の盛事
▲去る四日太皇帝には伊公の弔意を表する爲め統監邸を訪はる是亦稀有也
▲太皇帝の外出は從來曾て無き所一昨年昌德宮を訪はれて以來今度で再度
▲現今の德壽宮は最も平穩にして昔日雜踏出入せる頃に比すれば異に太平
▲伊公の薨去により韓國人等頻りに前途に就て種々臆測し何となく落付かず
▲一進會員中には此際歸化して日本の公明なる惠に浴せんと思立つ者有と
▲韓國人として寧ろ賢なる考へ日本に信頼するは畢竟斯國人を救ふ所以也
▲日本を排して韓國の獨立を計る杯と無鐵砲の事をなすは自ら亡ぶる所以
▲斯る見易き事が判らぬ韓國人等に對しては最早撫懷柔は全く無益たり
▲對韓政策に多少の變態は到底免る可らず希くは此際根本的の解決を望む
▲今回の事件に依り根本的の解決杯は餘り大國民らしからずとは皮想の見
▲經濟上の見地より半島の現狀を目擊せば斯る悠々たる議論の出來る筈無
▲現在の儘では韓人も邦人も共潰れ之が匡救には是非共根本的施療を要す
▲帝國の財政云々を以て時機早しと論ずるものあるもこは一の書草のみ也
▲暴徒も昨今亦々跋扈甚だしくなる渠れ匪賊は大々的討伐をなす必要あり
▲此際に於て取るべき方針は帝國の威信を鮮人に充分知らしむるにならむ
▲大坂富豪鴻池夫人番頭と情を通じて駈落す是れ好個の明治淨瑠璃の資料



福井茂兵衛優 (八)

▲當地壽座に出演する

この間約一週間を經過し六月三日その旨を横須賀開演中の川上に通ずると、翌四日金泉丑太郎が東上して「一座を引揚げるに十五圓要るから都合してくれ」との咄、僕に十五圓であるけれども當時の僕には頗る大金で右から左に工面の仕樣がない、と言つて打棄て〻置く譯にも行かぬので『兎も角も茶屋に咄してみよう』とて金泉を待たして置て獨りで出掛け三時間計りも頭を下げて賴込んだ、先方でも今更仕方がないので前借といふ事で澁々出して呉れたから喜んで飛んで歸り取り敢へずそれを持たして歸へした、すると六月十日唐突に一座が乘込んで來た、見れば絹物と言つては藤澤が斜子の古びたのを羽織つて居る丈けで一座悉く木綿の垢染みた着物に帽子も被らず皺そつぽ下駄さへ履かず草履穿のシミツタレた風でゾロ〜大勢遣つて來られた時は應う仕やうかと狼狽たよ、差詰めう〻晩寝かす處さへ極まつて居なかつたが幸ひ自宅の筋向ひに格好な荒家があつたから先づそこに打込んで置て先方へ開場日取りの談判に出掛けた處『目下の傳五郎、紫錦、瀧十郎の一座を打揚げ三遊派の落語芝居を三日間興行したその後で開演せよ』との事、これとても既に前約とあれば是非がないので徒らに轉ろ〜と十日間遊ばせてれいて僕は費用の調達に運動した、思へば大膽な咄しです手許に一厘の持ち合せなくて芝居をするんですからなア、小屋の前揚へ丈けは日々の上り高で支辨する約束で茶屋から借り受け小屋代、道具代一座の生活費等を入十圓と見積りそれは僕の名義で一割の利子を以て高利貸から融通をつけ、衣裳、太夫、囃子、足頼四十圓は菅野と赤坂の茶屋梅本から出してくれたので細々埒が明いた。狂言は何れも時局問題を脚色んだ際物で一番目『板垣退助遭難實記』五幕、中が『盛獄寫眞鏡』懲役の場、二番目『勘懲美談』と切が『存慶花柳噂』で極め愈々六月廿日に蓋を開けるといふその日の午後一時過ぎ裁判所から呼び出しになつたので出頭すると有罪の判決を渡された、喫驚しましたよ、固より覺悟は極めて居たけれどもよもや初日を見ずして這入るとは豫想ませなんだから、併しこの期に及んで何を詮ん術もなく只何事も運命と絶念て涙を呑んで入獄しました(未完)

仁川港の天長節

▲頗る寂寞を感せり

仁川に於ける一昨日の天長節は朝來天氣晴朗にして吹く風暖く各戸國旗を掲げ業を休みて聖上陛下の万歲を祝し奉りたり

▲拜賀式と遙拜式　斯くて午前九時四十分重なる官民は理事廳に參集して冷酒を酌み御眞影を拜賀したり其より民團立小學校にては午前十時半より雨天体操場に於て拜賀式を行はせられ矢田海事官岩崎民長其他の官民參列せり同十一時より大神宮に於て遙拜式を執行せられたり

▲市内各所の裝飾　此日民團より市内樞要の箇所四ヶ所に緑門を設け各戸は國旗提燈等にに裝飾され公園地通りには挿花及造物等ありて人出も可なり有

△生殖無能となす最良法　○○○○○○○○○
輸精管切開法と稱しての法は人をして生殖無能となすものなるがこれに要する手術たるや頗る簡單にてこれを施して後と雖も其色情的作用に些の變化損傷だもあることなしこは實に睾丸より出づる管即ち輸精管を切開するものにしてかくして精液の流出を妨ぐの法なりこのことは只「コカイン」麻醉を施し半「ツオル」許の皮膚切開を施してこれを遂行することを得べし手術に要する時間は僅々二三分のみ虫齒を拔くよりも無痛眞に簡且つ單なるものなり、而して其結果は如何にと云ふに男子の情的生活を變化せしめずして而かも犯罪の遺傳を防ぐところの最良方法なるなり

鴻池夫人の駈落

▲所謂貴婦人の墮落

去る一日午後二時四十分下關に下車したる二人の身裝賤しからざる男女あり男は豫て大阪より下關に着したる手荷物二個を受取り車を列ねて花之町の旅店高島屋に投宿したり宿の主人は身分ある人と見て鄭重に取扱ひしが宿帳には大阪東區和泉町中山善四郎(三〇)同妻ふく(三二)と記しまだ晝飯も済まさずして二人睦じく食事をなし夫より市中を散歩し二時間許りの後立歸りて三階の一室に入り男は得意氣に觀世流の謡など唸り夕食後間もなく臥床に入りしが翌未明突然下關署の警官同家に出張し二人を呼起して秋雨そぼ降る午前四時頃先づ善四郎を警察署へ連行き一時間程遲れてふく子をも同署へ伴ひしが之ぞ大坂屈指の富豪東區和泉町鴻池新十郎氏夫人さち子(三一)が手近く召使ふ番頭中山善四郎(三〇)を伴ひ家出したるなりける鴻池家にては突然夫人の姿を隱せしより上を下への大騒動を爲し諸所捜索の結果下關へ走りたる形跡を突留め同署にて取押へたるなり、夫人さち子は三井高保氏の二女にて先代鴻池新十郎氏に入嫁し同氏夭折の爲更に今の新十郎氏と結婚せしが性質頗る勝氣にて愛憎の念強く傍近く召使ふ者も男のみを選み俗にいふ男勝りの我が儘者なれば平生夫婦仲の睦まじからぬより女心の淺猿しくも夫に面當の家出を演じたるならんと尚は夫人に同行せる番頭中山善四郎は京都上京區小川通寺の内上る二丁目米商清原清三郎方同居中山勇次郎の二男にて勇次郎は以前烏丸四條上る町に呉服商を營み居りしも放蕩の爲に妻及び善四郎の外三人の子を置去りに家出したれば妻子は大宮一條上る帶地仲買商中山吉兵衛方の厄介となり居たるが善四郎兄弟も亦揃ひに揃つた放蕩者にて殊に同人は性來の美男が身の仇となりて身持修まらず一昨年上京區堀川今出川下る岸本彦吉の周旋にて鴻池新十郎氏方に雇れたる也と

醉漢の刄物三昧

▲出會頭にヨボを斬る

和歌山縣平民當時京城櫻井町六十三番戸魚商高島新三郎(四二)は平素至つて酒癖惡しき男なるが去る二日午後七時過ぎ獨酌にて四合餘りを傾け酩酊するに從ひ亂暴を働き器物等を手當次第に破壞し妻しかねを毆打なし益々狂ひ廻りて騒ぎ居たるも同人の酒癖を知れる近邊の者は誰一人として取鎭むる者なくしかねは苦痛の餘り漸くにして戸外に逃げ出したるを追跡して同町六十二番戸塚本新一郎宅前にて南部梅洞五十一統二戸韓人李仁植と出會ひ頭に突然隱し持つたる職用刺肉庖刀を以て同人を目懸けて斬付け背右上部に縱二寸深さ三分程の創傷を負はせたるを被害者の悲鳴を聞きて櫻井町二丁目六十六番戸の八東重太郎同町六十二番戸塚本新一郎の兩人が驚き駈付けたる時は新三郎は既に鮮血淋漓たる兇刄を提げて本町通りを穩然に逃走したる後なりしが兩人は被害者を助けて此旨永樂町派出所に訴へ出でたれば根本巡査は時を移さず現場に出張し犯人は直ちに南部署警官に逮捕せられたるが時節柄一時はなか〜の騒ぎなりき尚は同人は嘗て龍山にて熟醉の結果亂暴を働き懲役四十日に處せられ亦南部署にても拘留七日に處分せられたる厄介者なりといふ

●龍山の歌留多會　當地歌留多會の牛耳を執れる叢會の發起にかゝる京龍仁三ヶ所の歌留多嗜好家競技大會は去る三日龍山桃山下桃仙閣樓上に於て開催されたるが其優勝者左の如し

一等 八木(叢)
二等上田 双葉 三等和田山(漢江)四等(岡宮)五等片岡(漢江)

●船員の行衛不明　仁川松林里石灰製造所中村金太郎の持船福德丸は先月七日仁川港より七里を隔るナ〇ミ〇オ〇ンと云へる處に鹽積みに行きたる儘行衛不明となりたるが一昨日同船の破片を海上にて發見し右に依れば多分遭難せしもの〻如く船員三名は今に生死不明なりと云ふ

●昨日の花界柳　昨日は天長節の翌日にも拘はらず伊藤公國葬の爲め市中一般頗る寂寞にして中檢の如き僅かに二十五名揚りしのみ此内にて松葉亭は如何なる間違ひにや全部箱切れとなり翠は九名井門は五名花月清華亭は流石に一名も揚がらざりしとはさもある可笑なり

鈴木主水に扮せる
花月内にて福



●國葬當日の新町　昨夜は伊藤公國葬當日なるにも拘はらず新町の景氣は平日に勝り登樓客百四十五人此費消高七百六圓八十四錢なりしと

●昨夜來の寒氣　昨日來頗に寒冷を増し今朝の如き當地其他仁川地方にも薄氷結べるを見たり

●活動寫眞の好評　過般來當地歌舞伎座にて大人氣を博し花々しく仁川に乘込みたる名優演劇活動寫眞は愈々昨夜より向ふ四日間を限り築地歌舞伎座にて開演したるが中にも女辯士秋月歌子の彩色美人及び日本一と銘打つたる土屋松濤の假色が呼物となり仁川にて未曾有の大入を占め居れり昨夜の出物は松風村雨なりしが嘗て記載せし如く鮮明なる寫眞と高田一座の假色にて場面の調ひよく眞劇以上に面白く且つ泣かする節もありき二番目赤垣源藏は特に五代目名人菊五郎及び與左衛門の市川八百藏同妻つぎ中村芝翫の大舞臺にて開演したるものにて角近衆の觀覽になり右に同會が東京にて開演中第一師團大竹參謀長より活動寫眞が芝居か賞か指揮刀片手に貰ひ泣きどの情歌を贈られ切りに喝采せられたる事ありし由

●縮緬紗帛を拾ふ　仁川松坂町綿川増太郎の妻たかよ(三三)は昨日午後三時頃仲町井上呉服店前にて縮緬紗帛を拾得して屆出づ

●狐鼠泥忍び入る　永樂町二丁目百二番戸請負業御手洗辰吉方へ四日午後二時過ぎ家人の不在に乘じ小泥棒忍び入り柱時計一箇を攫浚はる

●雜誌朝鮮(十一月號)　先づ表紙の体裁を替へ卷中鮮明なる寫眞版數葉を挿れ論壇には伊藤公遭難に關して縱横に論議し其他各專門家の論説、學術經濟、實業、文苑等の記事遺憾なく網羅し頗る見る可き者あり最後の雜録は例に依つて趣味多し

演藝

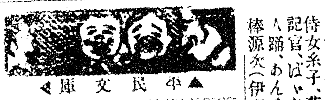
●壽座●　福井、伊東一座今五日及び明六日の替り狂言は悲劇「オセロ」と喜劇「走馬燈」にして場割並に配役左の如し

「オセロ劇の場割」

(一)馬公城埠頭(二)臺灣總督府夜會(三)總督府庭前(四)同植物室(五)同客室(六)同寢室(七)洪辰門外暗闘(八)同元の寢室

「オセロ及走馬燈役割」

伊屋剛藏れ宮、車夫熊吉(小泉)藝妓琵琶香、女學生(吉野)室夫人鞆音、熊吉嫗(藤島)門田民政長官、大學生(香月)黒井文太、田舎爺(小伊東)室中將參謀守山(吉井)鳥官中野夢路、憲兵日野、うどんや(小林)支那人(藤井)兵士(玉木)勝少佐、金滿家且那(小泉英)鳥官香川、新聞記者(田中)來賓(細井)藝妓(三好)藝妓、書生(田中)藝妓、金滿家奥樣(津村)舞妓(高井)侍女糸子、藝妓(粟野)楢取孝、倉地書記官、ばゞれ虎(芳川)支那人苦力、黒人踊、あんま宅市(北秋)伊屋剛三、泥棒源次(伊東)室賢郎(福井)



▲平民文庫◀

▲若返りし清華の女將面白く拜見扨其の後を襲ふ賓兒某は古參の仲居の某と云ふのと夫婦になつて前主の遺業を繼續するのだ相です(出前持)●●●▲先月廿七日午後十一時過ぎの終列車即ち龍山行の列車が發る五分間程以前のこと女出札掛三人が停車場前の於て紙袋に何にやら入れたのを抱ね込んでムシャ〜行らかして居ると案内掛の連中が夫れを逐つ蒐け廻してキヤツキヤツと云つて騒いで居たが終には女の手から紙袋を奪つてムシャ〜行ろ夫を又女が逐つ蒐ける杯なか〜の見物で面白かつた(呑氣生)●●●▲人の冷淡なるを水臭しと云ふ、水は臭氣あるものでなし意義を問ふ(松本)●●●▲伊公の遭吊式は非常に寒かつた由來敬意は寒いものかしら(中學生徒)▲判任官の妻君で裁り立ての白襟紋附は少々聊か擬古だ、ア、左樣云へば御亭主の判任官殿年の比較に頭髪が白かつた(同上)●●●▲平常は互に顔を見合はすれば會釋する程の間でありながら公會の席なりでは顔を目合はしても全然知らん顔の半兵衛を極め込むものがある彼れは目が眩むのだよ(笑止子)▲嘘だよ歸り掛けに何所かへ一緒に連れて行つて呉れ相な最負の旦那さんを探して居るからサ夫れが證據にや見給へな宴會なら宴會を主催した人には一番頭を餘計に下げるよ詰り奥山の猿同樣サ、ト思つて見ると食物でも出るとキヤツ〜と云ふ所が少なからず似て居るだんべい(小僧)●●●▲永登浦監獄署の力○看守長は賄賂を歡迎すること夥たしいが宜い加減に止めないと首に成りますよ部下から徴發する計りでなく少しは部下にも毒き玉へよ悪い事は申さぬよ(寶関子)●●●

各種 洗濯石鹸 專門製造販賣

用途 陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用

京城旭町二丁目 (電話九七三番)

朝日石鹸製造所

石炭木炭

歐米雜貨。食料品。和洋酒
呉服太物。時計。貴金屬
洋服。文房具。家具
金庫。煙草。牛乳

陸軍諸官衙御用達

淺野石炭部龍山代理店

Ⓡ

龍山新市街山下町二丁目

龍山兄弟商會

電話架設中 取次電話百四十八番 電信略號リウ

▲無料紹介欄▼

人事部

●募集 敏腕なる外交員至急入用希望者は直接京城本六滑稽新聞社來談あれ

●求職 年四十五確實なる身元保證人あり如何なる事務をも厭はず 姓名在社(四五五)

●少年入用 十七八才少年入用 大和町一丁目 爲春堂醫院

●職業あらば十圓の資本にて一日一圓以上の職業有希望の方は御來談あれ 黄金町三番戸 國松 商會

●小僧入用 大和町一丁目 藤井出張店

●ゲー生が約に告ぐ匿名にては取扱不申候

●卅七年出の醫學得業士内科小兒科及內外科に經驗あり病院醫院或は公共の醫院へ雇はれたし 氏名在社(四六〇)

●小僧入用 京城大漢門前遠藤洋服店

●女中入用三十才前後の婦人裁縫の心得ある人を求む 旭町一 旭町競賣所

●被雇度 年三十二身体強健如何なる勞苦をも不厭相當の勤め口を求む 氏名在社(四六七)

●賣子入用 多少商業に經驗ある女子に限る希望者は本人來談あれ 京城大和町一 日の出橋際藤井出張店

●植字に雇はれたし給料不望 氏名在社(四六八)

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建二間温突外八疊外三間井戸附右今月より貸したし家賃面談 氏名在社(五六四)

●電話 未設(不日かしう分)讓渡したし 氏名在社(四六二)

●貸家 官吏向二、三、六、八疊瓦葺平家一棟湯殿物置附總門構有家賃三十圓 氏名在社(四六一)

●醫院讓渡 京城市内有望の地希望の方は至急申込あれ 氏名在社(四六三)

●京城旭町一二階四疊半二間賄附貸したし但可成官吏を望む 氏名在社(四六四)

●電話讓受たし 京城黄金町廿番戸農商工部前通り 京城勞働組(四六五)

●本町表通一等地商店向間口二間半家賃廿圓の處造作悉皆四十圓にて讓渡度し希望者は鐘路赤帽子號高橋方へ急談

●貸家本町通り目抜の場所にて貸家あり希望者は來談あれ 氏名在社(四七〇)

廣告

多少ニ不拘萬事御便利ニ御扱申候 旭町三丁目 質 川崎 本町裏通北側 品物ハ大切ニ保管秘密嚴守仕候

澤庵漬用大根大賣出

漬物用白菜 大根

農商工部園藝模範場御拂下品 自園栽培

例年の通り品質特撰の上破格廉價を以て販賣仕候間續々御用命之程願上候現品配達は來る廿五日より開始仕候追て御希望に依り漬込の御囑にも可應申候 並に●鹽●糠●各種子●農具一式

京城本町一丁目(長谷川町筋)

三輪商會 電話三八六番



京城光化門通

淺田洋服店

店主 大島専藏 (電話四百十三番)

胃腸消化新劑

澱粉消化 ヂヤスタリン 錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢 散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢

蛋白脂消化 ゲスチンヂ 錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢 散錠一オンス入(一瓶)一圓四十錢

右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候 各地有名なる藥店に於て販賣す

●大韓醫院御用藥

韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

開業四週年 大賣出し

弊店儀御得意様の御引立を蒙り日増しに繁榮に赴き候段難有仕合に奉存候偖て本月は恰も開業四週年に相當するを機とし平素の御愛顧に酬ん爲め一日より一週間を期し破格の大賣出を開始致し候間續々御下命の榮を賜はり度奉希上候

百目に付き

ロース 廿二錢 上等肉 十八錢
並肉 十四錢 豚肉 十六錢
鷄肉 三十六錢

明治町一丁目 石田精肉店 電話千〇四十二番

本町一丁目たからや事 石田支店 電話三百二十九番

本人の妊景照儀居所不定にして家長の敎訓を遵守せず無賴の輩に迫逐せられ到底道理を以て諭す由なきことは累次廣告せり前日日人辯護士本多潤氏が本人の圖章と本人の弟嫂の圖章とを押捺したる債務證書有りと告げらる併し我國習夫人は圖章を用ひず凡債給者が本人に就て其圖章を質さずして之に應ずるの道理なし是れ無賴輩の詭計ならん内外國人之に信を措き欺罔せらるゝ勿れ

中部長橋東谷三十統一戸 李根培 告白

支那小犬一疋 毛色赤身長一尺 牝

右行衛不明と相成候に付發見被下候方には相當の御禮可仕候 京城貞洞

ソンタクホテル マンニング

歐米新式 高等裁縫 龍山榮町

田口洋服店 電話三一二番

陸軍諸官衙御用達 建築土工請負業 龍山老松町

磯口商店 電話一一九番



◉梅毒患者の福音

殊に梅毒三期患者に對して本院獨特の藥劑療法を行ひ如何なる難症と雖二週間以内に全治せしむ 尚癩病に對しても最新の治療を行ふ

梅毒 癩病科 内外科小兒科

京城南大門外通り御成町 戸田病院 電話九三八

折箱製造元

京城明治町二丁目五十番戸

箱信事 漢城病院下髮へ入ル

鳥山商店

暖爐各種

煙突取付並ニ煙突掃除大勉强



京城本町五丁目角一番戸 馬木勇吉 電四七一番

龍山山下町兵器廠官舍通入口 馬木支店 電三六四番

神戸資生分院 ◎花柳病專門附痔一般 注射療法 ●入院隨意●

京城梅毒病院

京城相生町(南門湯横) 院長 醫學得業士 蘆田耕平

廣告

荒物世帶道具一切

大阪 合製白絞油和洋蠟燭

和傘岐阜提灯魚釣道具

卸小賣

地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尙弊店營業品目錄御入用の御方は御通知あり次第送呈申上候

荒物世帶道具 各國諸油米穀 銘酒澤龜 アサヒ サッポロ 麥酒 並に買次業

合西 西崎嘉七本店

京城本町六丁目 電話長二一〇 電略(ニ、オ又はニ) 振替貯金口座東京(九四一七番)



大 合の 萬

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店 (電話二五一番)

和洋酒、精酎、穀物、麵類、銘茶、鑵詰、乾物、荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候

處方調劑の依頼に應す

京城南大門通三丁目

新井藥房本店

藥劑師 小松禎三

諸官衙御用品調達

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類

各學校御用品調達

委託販賣

東京 ランバーグ商會代理店

東京 中外アスファルト株式會社代理店

東京 千代田生命保險相互會社代理店

藤田合名會社

東京 博文館發行書籍特約店

東京 金港堂發行書籍特約店

釜山 鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十番地電話新橋三六九二

會席御料理御一人前 肴四品付酒二本 金六十錢 すき燒其の外應御好

京城竹園町一丁目 遊樂樓 (元三遊樓跡)

●電話開通八百三十五番●

唐津石炭直輸入商

並ニ平壤無煙炭あり

京城太平町一丁目九五 南大門高等女學校裏通り

近藤商店